

一 般 科 目

一般科目とは

全学科共通の一般科目は、授業時間数からいえば、1年から5年までのカリキュラム全体の約半分をしめており、低学年ほど一般科目の割合がたかく、学年があがるにつれて専門科目がふえる、という「くさび」型のカリキュラム編成となっています。

高等専門学校では、大学への編入学等で進学するにしても特別の受験勉強は必要ありませんから、一般科目でも、5年間でしっかりした「教養」をやしなうことがめざされています。

みずからの専門の基礎をなす土台をつくるために、また、視野のひろい市民としての見識や感覚をみにつけるために、勉学にはげむ学生にとってがんばりがいのある教育の質を提供したい、と一般科目の教官は考えています。

高等専門学校の教官は、学生の教育にあたるだけでなく、それぞれの専門領域についての研究活動もおこなっています。いうまでもなく、その成果は講義等の教育活動に直接いかされていますが、一般科の場合、それにくわえて、工学以外のさまざまな領域の専門家を擁することで、学生諸君の主体的な知的好奇心にもはばひろく応えうるものとなっています。

参考までに、一般科教官が研究活動をおこなっている専門領域の概要を紹介しておきます。()内は主な担当教科です。

近代日本文学、国文学(国語、文学)、考古学、民俗学(地理・歴史、美術史)、地域産業論(政治・経済、経済学)、哲学(倫理、哲学)、一般位相数学、代数学、微分方程式(数学)、応用物理(物理)、高分子化学(化学)、運動生理学、運動方法学(保健体育、健康科学)、英文学、英語学、言語獲得、アメリカ文学(英語)。

区分	授業科目	単位数	学年別配当					備考
			1年	2年	3年	4年	5年	
必修科目	国語	8	3	3	2			
	倫理	2			2			
	政治・経済	2	1	1				
	地理・歴史	4	2	2				
	数学	18	6	6	6			
	物理	4		4				
	化学	4		4				
	保健・体育	9	3	2	2	2		
	美術	1	1					
	音楽	1		1				
英語	18	6	5	5	2			
修得単位数計	71	26	24	17	4			
選択科目	文化史	2				2		
	文学	2				2		
	法学	2				2		
	経済学	2				2		
	哲学	2					2	いずれか2単位
	人文・社会特論	2					2	
	健康科学	2					2	いずれか2単位
	生物	2		2				
	地理学	2		2				
	外国語							4年次は いずれか2単位
ドイツ語	4				2	2		
中国語	4				2	2		
開設単位数計	26		4		12	10		
修得単位数計	6以上		2		2以上	2以上		
開設単位数合計	97	26	28	17	16	10		
修得単位数合計	77以上	26	26	17	6以上	2以上		

特別活動

時間数	1年	2年	3年
90	30	30	30

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態
国語	村田秀明 村田由美	I全	3	必	週3時間通年
教科書・参考書等					
教科書：「新国語I 改訂版」平岡敏夫 大修館					
授業目標・授業方針・学習方法・評価方法等					
<p>授業目標： 国語を的確に理解し、適切に表現する基本的能力を身につけさせる。 文学・芸術・思想・言語などの広い分野にわたる文章に触れさせ、思考力や感受性を育てる。</p> <p>授業方針： 評論・随筆・小説・詩歌・古典等、さまざまな文章を読解していく。 さらに国語常識についても、時間をかけて習得させる。</p> <p>学習方法： 週3時間を現代文2、古典1の配当で学習する。</p> <p>評価方法： 4回の定期試験を中心に、平常の小テスト、課題等を含めて総合的に評価する。</p>					
授業進度・内容					
前 期			後 期		
6	現代文	随想 (一)	4	現代文	小説 (二)
6	"	小説 (一)	5	"	短歌
2	古文	古文 (一)	5	"	評論 (二)
4	漢文	漢文 (一)	4	"	小説 (三)
2	前期中間試験		4	古文	古文 (三)
			4	漢文	漢文 (三)
6	現代文	評論 (一)	2	後期中間試験	
6	"	作文			
4	"	詩	4	現代文	評論 (二)
4	古文	(二)	8	"	随想 (二)
4	漢文	(二)	9	古文	日本の文章
2	前期末試験		2	学年末試験	

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態
政治経済	時松雅史	I全	1	必	週1時間通年
教科書・参考書等					
教科書：『政治・経済』都留重人ほか 実教出版 プリント資料配布					
参考書：『法とは何か』渡辺祥三 岩波新書 『憲法を読む』小林直樹 岩波新書					
授業目標・授業方針・学習方法・評価方法等					
<p>授業目標： 近代市民社会を形成した政治的諸原理を理解する。また、憲法は何のために存在するのか、国民にとってどういう意味をもっているのか、という基本的問題を理解する。さらに石油をはじめとする資源・エネルギー問題を扱うことにより国際政治の動向を理解する。</p> <p>授業方針： 教科書、プリントを丁寧に読み、論理的な思考力を身につける。</p> <p>学習方法： 解説をよく聞き、教科書、ノートを丁寧に読む。</p> <p>評価方法： 定期試験を重視する。また授業ノートを評価の参考にする。</p>					
授業進度・内容					
時数	前 期		時数	後 期	
2	1. 国際社会の変容		3	8. 日米安保条約と日本の軍備	
2	2. 政治社会の特質		3	9. 平和主義と日本の防衛問題	
4	3. 民主政治の諸原理		4	10. 国際政治の課題と日本	
2	4. 日本国憲法の成立		5	11. 資源・エネルギー問題	
2	5. 日本国憲法の基本原理		学年末試験		
2	6. 日本国憲法と基本的人権				
1	7. 現代社会における人権				
	前期末試験				

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態
歴史 (地理歴史)	佐藤伸二 時松雅史	I全	2(I)	必	週1時間通年
教科書・参考書等					
教科書：『世界の歴史』 神田信夫、柴田三千雄 山川出版社					
授業目標・授業方針・学習方法・評価方法等					
<p>授業目標：現代の世界がどのようにして成立してきたかについて、大筋を理解させる。</p> <p>授業方針：東ヨーロッパ世界・西ヨーロッパ世界・イスラム世界の特色と成立課程を理解させる。（東アジア世界については第2学年で日本史とのからみで取り上げる。）近代ヨーロッパ世界の形成と膨張の課程を理解させる。</p> <p>学習方法：よく話を聞き、教科書中の地図・年表を良く見て、大筋をつかむ。</p> <p>評価方法：年4回の定期試験を軸に評価する。</p> <p>* 尚、前期はM科、E科を佐藤が、C科、B科を時松が担当し、後期はM科、E科を時松が、C科、B科を佐藤が担当する。</p>					
授業進度・内容					
時数	前期(後期)	時数	後期(前期)		
1	(1) 人類の進化と古代文明の発生	4	1. ヨーロッパ中世封建社会の解体と集権国家体制の確立		
1	(i) 人類の進化				
1	(ii) 人種と民族	4	2. ヨーロッパ市民革命		
1	(iii) 農耕文化と古代文明				
2	(2) 古代オリエント世界	1	後期中間試験		
1	(i) エジプトとメソポタミア	4	3. 産業革命と資本主義の確立		
1	(ii) 音標文字と一神教				
1	前期中間試験	3	4. 労働運動と社会主義		
2	(3) 古代地中海世界	1	学年末試験		
1	(i) 古代ギリシャとヘレニズム				
1	(ii) ローマ帝国の成立				
2	(iii) ローマ帝国の成立とビザンツ帝国の成立				
2	(iv) イスラム帝国の成立				
1	前期末試験				

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態
地理 (地理歴史)	宝月拓三	I全	2(I)	必	週1時間通年
教科書・参考書等					
教科書：『詳説 新地理 B』 山本正三他 二宮書店					
地図帳：『新詳高等地図 最新版』 帝国書店					
授業目標・授業方針・学習方法・評価方法等					
<p>授業目標：世界各地に展開するさまざまな生活のありさまを理解するために、生活を支えあるいは規定するであろう自然環境に関して、基礎的な理解を得る。</p> <p>授業方針：教科書にある基本的知識の理解をさらに深めるために解説を加え、さらに、これら知識の習得を前提に、幾つかのテーマに沿って、多様な自然環境の理解を深めさせる。</p> <p>学習方法：毎時の予習・復習を勧める。予習時には基礎知識をノートに整理し、授業時には新たな知見をノートに書きとり、復習時にこれらの再確認を行う、という作業を飽きることなく繰り返す。時に地理学関係の辞書等を図書室で調べるくらいの積極性も望まれる。</p> <p>評価方法：4回の定期試験により、総合的に評価を行う。</p>					
授業進度・内容					
時数	前期	時数	後期		
1	人間生活と自然・自然環境・環境	4	熱帯の環境		
7	世界の地形	4	温帯の環境		
	プレート・テクトニクス論	1	後期中間試験		
	変形地形	4	高度による環境変化		
	侵食・堆積地形	3	乾燥帯の環境		
1	前期中間試験	1	学年末試験		
7	世界の気候				
	世界の風系とその成因				
	地域区分の課題とケハツ				
	植生帯と土壌帯				
1	前期期末試験				

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態
数 学	元田康夫 小原康博 五十川誠 小鉢暢夫	I 全	6	必	週6時間通年
教科書・参考書等					
教科書：「新編 高専の数学Ⅰ」 田代嘉宏 難波完爾 森北出版 問題集：「新編 高専の数学Ⅰ問題集」 田代嘉宏 森北出版					
授業目標・授業方針・学習方法・評価方法等					
<p>授業目標：初等関数の基本的性質を習得する。 計算力を身につけると同時に、論理的にまた総合的に考える力を養う。</p> <p>授業方針：各項目の説明、定理や公式の証明等を行い、実際に問題を解き理解を深める</p> <p>学習方法：毎日の予習・復習による積み重ねが大事である。教わった項目はすぐに問題解きを行い、定理・公式等を十分に理解し、その重要性を認識しよう。 なお学習のしおりも併せて参考にするとうい。</p> <p>評価方法：主に各種の試験（定期試験4回、夏季共通試験、その他各教官が行う試験）で評価を行うが、レポートの提出状況、授業態度等も加味する。</p>					
授業進度・内容					
時数	前 期	時数	後 期		
18	1. 式と数 整式の計算	20	3. 関数・方程式・不等式 関数とグラフ		
16	数と集合		4. 指数関数・対数関数 指数関数		
10	2. 2次の関数・方程式・不等式 2次関数	12	対数関数		
2	前期中間試験	2	後期中間試験		
18	2次方程式		5. 三角関数		
12	2次関数のグラフと不等式	14	三角関数の定義		
		10	三角関数の性質		
		10	加法定理とその応用		
14	3. 関数・方程式・不等式 命題・恒等式・方程式・不等式	10	三角形の性質		
2	前期末試験	2	学年末試験		

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態
化 学	上土井 幸喜 小林 浩	I 全	4	必	週4時間通年
教科書・参考書等					
教科書：「高校化学ⅠB」井口 洋夫・富田 功・相原 惇一 他 実教出版 問題集：別途指示する。					
授業目標・授業方針・学習方法・評価方法等					
<p>授業目標：物質相互間に存在する深い関連性を見出し、系統的かつ総合的に物質を理解する能力を身につけさせる。</p> <p>授業方針：化学に対する興味と理解を深めるために、各項目の説明に演示実験を加え、さらに数テーマの実験を行う。また、教科書や、問題集の問題も解く。</p> <p>学習方法：授業中の理解を確実にするために、予習・復習は必ず行い、問題意識をもって授業にのぞむ。教科書や、問題集の問題を自分で解き事項の整理や理解を一層深める。疑問を生じたら、そのまま放置しないでどんどん質問すること。</p> <p>評価方法：4回の定期試験、夏季共通試験、その他小テスト、実験レポート等で評価を行う。</p>					
授業進度・内容					
時数	前 期		時数	後 期	
10	第1編 物質の構成と化学結合		10	酸と塩基の反応	
10	物質の構成		10	酸化還元反応	
10	粒子の結合		10	電池と電気分解	
10	粒子の相対質量と物質量		2	後期中間試験	
2	前期中間試験			第4編 物質の性質（Ⅰ）	
	第2編 物質の状態		4	典型元素とその化合物	
4	物質の三態		4	遷移元素とその化合物	
6	気体			第5編 物質の性質（Ⅱ）	
6	溶液		4	有機化合物の分類と分析	
	第3編 物質の変化		4	脂肪族炭化水素	
10	化学反応と熱化学方程式		4	アルコールと関連化合物	
2	前期末試験		4	芳香族化合物	
			2	糖とアミノ酸	
			2	学年末試験	

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態
保健体育	宅島 章 四宮一郎 粟谷 敦 田中由美子	1全	3	必	週3時間通年
教科書・参考書等					
教科書：「ヘルス&フィットネス」 増田卓二 他 ナカニシヤ出版					
授業目標・授業方針・評価方法・学習方法等					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 中学時代に学んだ保健体育の知識をさらに学理的に深く、その対象も広くし、体育については理論的・体系的に学ばせ、自分自身の運動の効果と集団における指導性はもとより生涯、自己に適した身体活動を行う習慣を身につけ、余暇を善用する能力を養う。 2. 心身の健康の正しい意味・内容を知らせ、さらに心身の健康保持・増進のための基礎知識として科学的な理解を深めさせる。 3. 私たちの身のまわりで発生した事故や災害によって起こりがちな、ケガや急病に対する正しい救急処置法を学ぶと同時に、自分だけでなく他人の「いのちの大切さ」を学び、事故やケガをしないように事故防止や安全に対する意識を高める。 4. 剣道の特性を理解して、基本動作を正しく身につけ、対人的技能に習熟する。 5. 礼儀を重んじ、相手を尊重する態度を育成する。 6. 授業時間不足については、原則として学年評価をしない。 7. 定められた体育服及び体育館シューズを着用しない者については、原則として授業に参加させない。 8. 公欠の届けは、体育科所定の用紙に記入の上1週間前に担当教官に提出すること。 					
授業進度・内容					
時数		時数			
18	1期 1班 トレーニング実践Ⅰ 2班 陸上競技 3班 ハンドボール 女子 バレーボール	担当者 宅 島 粟 谷 四 宮 田 中	18	3期 1班 陸上競技 2班 ハンドボール 3班 トレーニング実践Ⅰ 女子 ダンス	担当者 粟 谷 四 宮 宅 島 田 中
6	全 水 泳 スポーツマン適正テスト測定			剣 道 M, B	担当者 宅 島
18	2期 1班 ハンドボール 2班 トレーニング実践Ⅰ 3班 陸上競技 女子 陸上競技	担当者 四 宮 宅 島 粟 谷 田 中		E, C 保 健 M, B E, C	四 宮 宅 島 四 宮

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態
美術	中野和枝	1全	1	必	週1時間通年
教科書・参考書等					
別になし					
授業目標・授業方針・学習方法・評価方法等					
<p>授業目標及び方針： 絵画や彫刻などの純粋芸術としての「美術」としてより、実社会との深い関わりがある「デザイン」の基礎として「形や色」を基本に、実技を主としたものとする。</p> <p>形は主にデッサンを中心とし、色は、三原色からの12色相環づくり、平面構成など。形と色をまとめたかたちとして、C. D ジャケットなどの製作を通して「デザイン」の一つの手法を学ぶ。</p> <p>学習方法： 物体を単純な形にすると、立方体や球などの基本の形となる。その形には高さや幅や奥行があり、その比を正確にとらえ、光と影で表現する。物体には必ず色がある。三原色（赤、青、黄）から生まれる色について学習し、その色が生まれて来る過程や、隣り合う色によってその色が変化することなど体験する。</p> <p>評価方法： 各作品の平均点とする。</p>					
授業進度・内容					
時数		時数			
1	オリエンテーション	1	色についての話し		
1	明度尺	1	12色相環台紙づくり		
5	立方体、球、円錐、円柱など、基本形のデッサン（コンテ鉛筆による）	3	12色相環づくり（三原色による）		
4	基本形による平面構成（コンテ鉛筆によるモノクロ表現）	1	メビウスの輪づくり		
		1	メビウスの輪デッサン 5ポーズ		
		6	メビウスの輪による平面構成		
		7	CDジャケット デザイン		

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態
英語 I (総合英語)	山田章則、折田 充 宇ノ木寛文、松田由美	1年全	6 (5)	必	週5時間通年
教科書・参考書等					
教科書: 『Unicorn I』		末永國明他		文英堂	
問題集: 『Unicorn I Workbook』				文英堂	
『Prospect I』		千葉元信編		桐原書店	
参考書: 『高校英語』		浅野博、水江彰一		啓林館	
『標準英単語 71-カズ 3000』		現代英語研究会		啓林館	
『The Phantom of the Opera』 『Ear-rings from Frankfurt』		Oxford U.P.			
授業目標・授業方針・学習方法・評価方法等					
<p>授業目標: 「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の4技能にわたり、基礎・基本的な運用能力を習得すると共に、自発的な学習習慣を身につけさせる。また、英語学習に加え、外国の文化・習慣に目を向けさせる。</p> <p>授業方針: 「読みとり・聞き取り」についてだけでなく、表現の指導も行う。学生の授業での積極的な言語活動への参加を重視し、その一環として身近な話題についての言語活動を課す。長期休暇中には、英語の読み物を課題として与える。また、単語力養成のための指導や、総合問題集による指導も随時行う。各長期休暇後にはそれらをもとに課題テストを実施する。2年生に進級する際には全員が実用英語検定3級の資格は取得できることとする。</p> <p>評価方法: 授業への積極的な参加と、クラス全体の学習の深化に貢献する質問や言語活動への取り組みを高く評価する。そして、授業中の取り組み状況、定着度確認テスト、授業外で取り組む課題、加えて、定期考査を総合して評価する。</p>					
授業進度・内容					
時数	前 期	時数	後 期		
9	1: The Internet Age	13	9: Jeannette Rankin		
10	2: Terakoyas Throughout the World	13	10: How to React to Familiar Fames For Reading 2: Thank You, M'am		
10	3: The Soybean Road	13	後期中間考査		
10	4: Language and Culture	2			
2	前期中間考査				
8	For Reading 1: A Bounce in His Step	15	11: The Lessons of Easter Island		
8	5: The Great Journey	14	12: The Sense of Wonder		
8	6: An Interview with Steven Spielberg	2	学年末考査		
8	7: Peter Rabbit and His Home				
7	8: Hello, Dolly!				
2	前期末考査				

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態
English Conversation I	G. A. DAVIES	1年全	6 (1)	Required	1 class per week through the year
教科書・参考書等					
Textbook: <i>On Your Way--Student's Book 1</i>					
Author: L. Anger, C. Pavlik, M. K. Segal.					
Publisher: Longman					
授業目標・授業方針・学習方法・評価方法等					
<p>The Aim of this Subject: Is to develop the listening comprehension and speaking skills as used in everyday situations.</p> <p>Teaching Methods: Are by student-centered activities that give the opportunity to practice, grammar, vocabulary, and listening skills from dialogs, tape cassettes and exercises.</p> <p>Evaluation: Is by the use of tape cassette exercises, fill in exercises and sentence completion.</p> <p>What I want the students to study: Is the practical skills in the use of English conversation in situations such as housing, transportation, and employment.</p>					
授業進度・内容					
時数	First Term	時数	Second Term		
1	1: Hi-introducing	1	1: It Has Great View		
1	2: Oneself	1	2: Describing Objects		
1	3: Nice to Meet You	1	3: How Do You Like New York ?		
1	4: Greeting and Responding	1	4: Opening a Conversation		
1	5: Review 1-4	1	5: Review 1-4		
1	6: Are You from San Francisco?	1	6: Is There a Post Office ?		
1	7: Discussing Plans	1	7: Asking/Giving Directions		
1	8: What's That ?	1	8: Is Marty There, Please ?		
1	9: Describing Things	1	9: Inviting		
1	10: Review 6-9	1	10: Review 6-10		
1	11: Can I Help You ?	1	11: What's New With You ?		
1	12: Hotel Registration	1	12: Reporting Symptoms		
1	13: How was Your Vacation ?	1	13: Did You Find a Job ?		
1	14: Asking & Telling the Price	1	14: Talking about Work		
1	15: Review 11-14	1	15: Review 11-14		
1	Term Examination	1	Term Examination		

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態
国語	金芳憲雄 村田秀明 村田由美	2全	3	必	週3時間通年
教科書・参考書等					
教科書：「国語Ⅱ」阿川弘之 学校図書					
授業目標・授業方針・学習方法・評価方法等					
<p>授業目標：1年で身につけた知識や言語感覚、論理的な思考力や文学的な感受性に、さらに広がりや深み、正確さや柔軟性を加える。</p> <p>授業方針：評論、随筆、小説、物語、詩歌、俳諧等、いろいろなジャンルの文章をさまざまな方法で読み解く。また、国語の常識、特に言語的要素を習得させる。</p> <p>学習方法：週3時間を現代文2、古典1の配当で学習する。</p> <p>評価方法：4回の定期試験を中心に、平常の小テスト、課題の提出状況等を含めて総合的に評価する。</p>					
授業進度・内容					
前期			後期		
6	現代文 随筆(一)	6	現代文 小説(二)		
6	" 小説(一)	8	" 俳句		
6	古文 古文(一)	4	" 評論(二)		
		4	古文 古文(三)		
		4	漢文 漢文(二)		
2	前期中間試験				
6	現代文 評論(一)	2	後期中間試験		
6	" 作文				
4	" 詩	6	現代文 小説(三)		
4	古文 古文(二)	8	" 随想(二)		
4	漢文 漢文(一)	4	古文 日本の文章		
2	前期末試験	2	学年末試験		

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態
政治経済	時松雅史	2全	1	必	週1時間通年
教科書・参考書等					
教科書：『政治・経済』都留重人ほか 実教出版 プリント資料配布					
授業目標・授業方針・学習方法・評価方法等					
<p>授業目標：現在ロシアをはじめとする旧社会主義諸国では市場経済化が進みつつある。こうした市場経済を支える基本的な仕組みを理解する。さらに日本経済の動きを世界経済との関連の中で学ぶ。</p> <p>授業方針：教科書、プリントを丁寧に読み、見ていく。経済統計を扱う機会が多いので統計に現れる数字の背景、意味を理解していく。</p> <p>学習方法：授業中に出てきた用語をその日のうちに整理する。教科書、ノートを丁寧に読み、理解する。</p> <p>評価方法：定期試験を重視する。また授業ノートも評価の参考にする。</p>					
授業進度・内容					
時数	前期		時数	後期	
3	現代経済のしくみ 1. 市場の働き		4	国民経済と国際経済 5. 国際経済の原理	
3	2. 現代の企業		4	6. 国際経済の展開と現状	
5	3. 金融と財政の役割		3	7. 世界経済の中の日本	
4	4. 景気変動と経済成長 前期末試験		4	8. 日本の農業と食料 学年末試験	

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態
歴史 (地理歴史)	佐藤伸二	2全	2	必	週2時間通年
教科書・参考書等					
教科書：『改訂 日本史』 尾藤正英他 東京書籍 『世界の歴史』 神田信夫他 山川出版					
授業目標・授業方針・学習方法・評価方法等					
<p>授業目標：日本が東アジア諸国とどのようにかかわって来たかを理解させ、今後のかかわり方について考えさせる。</p> <p>授業方針：中国を中心とした東アジアの国際社会の特質（冊封体制）を理解させる。江戸時代の対外関係について正しく理解させる。これらを踏まえて、明治以降の日本の動き（脱亜入欧）について考えさせる。</p> <p>学習方法：話をよく聞く。教科書にある地図や年表を見て、おおまかな時代の流れを頭に入れる。</p> <p>評価方法：年4回の定期試験の結果を軸に評価する。</p>					
授業進度・内容					
時数	前期	時数	後期		
5	1. 日本列島の形成と日本人の起源 (イ) 更新世の日本列島 (ロ) 気候の温暖化と縄文文化 (ハ) 日本人の起源についての諸説	8	4. ヨーロッパ人のアジア進出と日本の対応 (イ) 地理上の発見とイエズス会の活動 (ロ) 秀吉・家康の対外政策		
10	2. 古代東アジア世界と日本 (イ) 秦・漢帝国と弥生文化 (ロ) 邪馬台国の位置 (ハ) 騎馬民族の活動と朝鮮半島の情勢 (ニ) 渡来人と古墳文化 (ホ) 隋帝国の朝鮮半島政策と推古期 (ヘ) 唐帝国の朝鮮半島政策と遣唐使	10	5. 江戸時代の日本とヨーロッパ (イ) 南蛮人と紅毛人 (ロ) 吉宗の政策と蘭学の発展 (ハ) ヨーロッパ列強のアジア進出 (ニ) ロシアの進出と北方探検 (ホ) 開国と幕末の政変 後期中間試験		
1	前期中間試験	1			
14	3. 中国経済の発達と中世の日本 (イ) 宋王朝の政治と経済の発達 (ロ) 日宋貿易 (ハ) 元 (ニ) 日明貿易 (ホ) 琉球王国の発展	12	6. 日本の近代化と東アジア (イ) 琉球処分 (ロ) 条約改正 (ハ) 日清戦争 (ニ) 日露戦争 (ホ) 日本人のアジア観 (ヘ) 第1次世界大戦 (ト) 満州事変		
1	前期末試験	1	学年末試験		

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態
数学	野入 隆 元田康夫 小原康博 小鉢暢夫	2全	6(4)	必	週4時間通年
教科書・参考書等					
教科書：「新編 高専の数学2」 田代嘉宏 難波完爾 森北出版 問題集：「新編 高専の数学2問題集」 田代嘉宏 森北出版					
授業目標・授業方針・学習方法・評価方法等					
<p>授業目標・方針：「高専の数学2」の第2章 微分法までおよび第3章の不定積分の一部を習得する。必要事項の説明が終わると教科書および問題集の問題解きを主体に授業が進められる。</p> <p>学習方法：微分概念をしっかりと把握し、その手法になれること。問題解きを十分に理解を深めること。進度は少しずつではあるが、常に新しい概念が導入されるので、その都度十分な理解を示すよう努力しよう。</p> <p>評価方法：主に各種の試験（4回の定期試験、春季および夏季試験、その他各教官が行う試験）で評価を行うが、レポートの提出状況、出席状況、授業態度等も加味する。</p> <p>必要な予備知識：1年で習った初等関数の基本的性質を十分に理解しておくこと。</p>					
授業進度・内容					
時数	前期	時数	後期		
18	1章 数列 数列とその和	10	対数関数・指数関数・三角関数の導関数		
10	無限数列	12	導関数の応用		
2	2章 微分法 整式の導関数 (関数の極限值)	8	3章 積分法 不定積分(不定積分・置換積分法・部分積分法)		
2	前期中間試験	2	後期中間試験		
8	整式の導関数 (微分係数・導関数・接線)	6	不定積分(いろいろの関数の不定積分)		
10	関数の増減	12	定積分		
12	いろいろの関数の導関数	12	定積分の応用		
2	前期末試験	2	学年末試験		

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態
数 学	五十川 誠 川崎信夫	2 全	6 (2)	必	週 2 時間通年
教科書・参考書等					
教科書：「新編 高専の数学 1」 田代嘉宏 難波完爾 森北出版 「新編 高専の数学 2」 田代嘉宏 難波完爾 森北出版 問題集：「新編 高専の数学 1 問題集」 田代嘉宏 森北出版 「新編 高専の数学 2 問題集」 田代嘉宏 森北出版					
授業目標・授業方針・学習方法・評価方法等					
<p>授業目標・方針：代数系列を習い空間図形とベクトルまでを習得する。1次曲線、2次曲線の基本的事項を講義し、平面および空間図形の基本的性質をベクトルを用いて取り扱う。</p> <p>学習方法：ベクトルを用いて、図形の取扱が出来るようにし、幾何学的イメージを養うようにすること。具体的な問題を解くことにより理解を深めること。</p> <p>評価方法：主に各種の試験（4回の定期試験、春季および夏季試験、その他各教官が行う試験）で評価を行うが、レポートの提出状況、出席状況、授業態度等も加味する。</p>					
授業進度・内容					
時数	前 期	時数	後 期		
8	「高専の数学 1」 6 平面上の図形とベクトル 点と直線	4	ベクトル（内積）		
6	円その他の2次曲線（円・楕円）	4	図形とベクトル		
2	前期中間試験	6	「高専の数学 2」 5 空間の図形とベクトル		
5	双曲線・放物線・2次曲線	2	後期中間試験		
4	不等式と領域	6	空間の図形とベクトル（内積）		
5	ベクトル	10	空間図形の数式		
2	前期末試験	2	学年末試験		

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態
物 理	北辻 安次 吉沖 周三	2 全	4	必修	週 4 時間通年
教科書・参考書等					
教科書：「新編物理 I B」 國友正和 他 数研出版 問題集：「物理 I B 研究ノート」 九高理編 博洋社					
授業目標・授業方針・学習方法・評価方法等					
<p>授業目標：力学、波動、熱に関する基礎的項目の理解と習得を目指す。</p> <p>授業方針：使用する教科書に沿って授業を行うが、適宜、実験を演示することにより理解をうながす。また、学生自身による実験も進度に応じて実施する。項目の進度に応じて教室で問題解答例と添削を行う。</p> <p>学習方法：受講者は、教科傍用の問題集を利用して、各自ですんで自宅学習を行うことが必要不可欠である。授業においては、物理的概念の把握を目標とするので、復習、問題解答、実験及び観察を通じてそれらを自分のものとするように自ら努力する。</p> <p>評価方法：年 4 回の定期テストで主に学習及び習得度の評価を行うが、その他に随時行うテストや、実験レポート、感想文などの提出物の評価及び授業参加の態度などの平常の評価も加えて総合的に評価を行う。</p>					
授業進度・内容					
時数	前 期			時数	後 期
4	・力学・ 等速直線運動			4	・波動・ 円運動と単振動
4	速度の合成と分解			4	波動と正弦波
4	速度と加速度、等加速度運動			2	縦波と横波
4	落体の運動			4	重ね合わせの原理と干渉
4	力の合成と分解			4	波の反射・屈折・回折
4	力のつり合い			4	音速・音波の性質、うなり
6	運動の法則			4	弦の振動と気柱の振動
2	前期中間テスト			4	共鳴と共振
4	摩擦のある運動			2	後期中間テスト
4	運動量と力積			4	ドップラー効果
6	運動量保存法則			4	光速、光の反射・屈折
4	仕事、仕事率			4	光の干渉、ヤングの実験
4	運動エネルギー・位置エネルギー			4	回折格子、薄膜による干渉
4	力学的エネルギー保存法則			2	光のスペクトル
4	保存力と非保存力			2	ボイルシャルルの法則
2	前期末テスト			2	熱の仕事当量
				4	内部エネルギー、断熱変化
				4	熱機関の効率
				2	学年末テスト

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態
保健体育	宅島 章 四宮一郎 粟谷 敦 田中由美子	2全	2	必	週2時間通年
教科書・参考書等					
教科書：「ヘルス&フィットネス」 増田卓二 他 ナカニシヤ出版					
授業目標・授業方針・評価方法・学習方法等					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 中学時代に学んだ保健体育の知識をさらに学理的に深く、その対象も広くし、体育については理論的・体系的に学ばせ、自分自身の運動の効果と集団における指導性はもとより生涯、自己に適した身体活動を行う習慣を身につけ、余暇を善用する能力を養う。 2. 心身の健康の正しい意味・内容を知らせ、さらに心身の健康保持・増進のための基礎知識として科学的な理解を深めさせる。 3. 私たちの身のまわりで発生した事故や災害によって起こりがちな、ケガや急病に対する正しい救急処置法を学ぶと同時に、自分だけでなく他人の「いのちの大切さ」を学び、事故やケガをしないように事故防止や安全に対する意識を高める。 4. 授業時間不足については、原則として学年評価をしない。 5. 定められた体育服及び体育館シューズを着用しない者については原則として授業に参加させない。 6. 公欠の届けは、体育科所定の用紙に記入の上1週間前に担当教官に提出すること。 					
授業進度・内容					
時数					時数
1 2	1期 1班 トレーニング実践Ⅱ	担当者 宅 島	1 2	3期 1班 テニス	担当者 四 宮
	2班 手具体操・救急法	粟 谷		2班 バレーボール	田 中
	3班 テニス	四 宮		3班 トレーニング実践Ⅱ	宅 島
	女子 バレーボール	田 中		女子 手具体操・救急法	粟 谷
1 2	全 水 泳 スポーツマン適正テスト測定				
1 2	2期 1班 手具体操・救急法	担当者 粟 谷	1 2	4期 1班 バレーボール	担当者 田 中
	2班 テニス	四 宮		2班 トレーニング実践	宅 島
	3班 バレーボール	田 中		3班 手具体操・救急法	粟 谷
	女子 トレーニング実践	宅 島		女子 テニス	四 宮

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態
音楽	牧 智信	2全	1	必	週1時間通年
教科書・参考書等					
教科書：学生のための「音楽と鑑賞」 市川都春・滝本泰三 教育芸術社					
資料：自作プリント資料 「音楽史による作曲家と時代背景」					
授業目標・授業方針・学習方法・評価方法等					
<p>授業目標：音楽の美しさ楽しさにふれ、音楽鑑賞から得た体験をどうして、これからの生活に潤いが生まれ、生涯学習の一助となる知識と感性を養う。</p> <p>授業方針：音楽史と大作曲家による名曲鑑賞を主内容とし、名曲の鑑賞を通して音楽家に親しみ、その生涯と時代背景などを理解しながら多面的な学習を行う。</p> <p>学習方法：名曲鑑賞を毎時実施する。音楽史をひもときながら、各時代を代表する作曲家の生涯や作品（歌曲・ピアノ曲・器楽曲・交響曲等のジャンル別の分類や特徴）を音楽や映像を通して理解を深める。</p> <p>評価方法：学年末試験を行うとともに、レポートの提出、授業への参加、関心、態度等を加味して評価を行う。</p>					
授業進度・内容					
時数	前期		時数	後期	
1	1. 音楽の基本事項 音楽史の概念と音楽表現や鑑賞における基本事項の理解		7	5. ロマン派前期の音楽 シューベルト、ウーバー、ロッシニ、メンデルスゾーン、ショパン、シューマン、リスト	
2	2. 中世・16世紀の音楽 グレゴリオ聖歌 ルネサンスと教会音楽		6	6. ロマン派後期・国民学派の音楽 ワーグナー、ベルディ、ピゼー、J. シュトラウス、ブラームス、スメタナ、チャイコフスキー、ドボルザーク、グリーグ、サンサーンス、ドビュッシー、ほか	
5	3. バロックとロココ音楽 バーセル、ビバルディ、バッハ、タルティーニ、ヘンデル				
9	4. 古典派の音楽 ハイドン、モーツァルト、ベートーベン		4	7. 近世・現代の音楽 ラベル、ストラビンスキーほか 民族音楽と国際理解	

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態
英語Ⅱ (総合英語)	山田章則 松田由美	2年全	5(4)	必	週4時間通年
教科書・参考書等					
教科書: 『CreativeⅡ』 田綱 兼他 第一学習社 問題集: 『CreativeⅡ Workbook』 第一学習社 『CrestⅡ』 桐原書店 参考書: 『Productive 新高校英語』 第一学習社 『Productive 新高校英文法』 第一学習社 『完全征服2 基礎英単語・熟語』 桐原書店 『The Locked Room』 Oxford U.P. 『Robinson Crusoe』 Oxford U.P.					
授業目標・授業方針・学習方法・評価方法等					
授業方針: 「英語Ⅰ」で習得した4技能にわたる基礎・基本的能力の充実に図り、発信型の英語運用能力を伸ばさせることを目指す、あわせて自立した学習習慣を定着させる。 授業方針: 「英語Ⅰ」における授業方針を更に発展した形式で行う。平常の授業においては、学生の授業での積極的な言語活動への参加を重視する。その一環としての身近な話題についての言語活動を引き続き行い、定期考査や長期休暇中の課題でも扱う。長期休暇中には、英語の読み物を課題として与える。また単語力増強のための指導や、総合問題集による指導も随時行う。各長期休暇後にはそれらをもとに課題テストを実施する。3年生進級の際には、全員が実用英語検定準2級の資格を取得できることを望む。 評価方法: 授業への積極的参加と、クラス全体の学習の深化に貢献する質問や言語活動への取り組みを高く評価する。そして、授業中の取り組み状況、定着度確認テスト、授業外で取り組む課題、加えて、定期考査を総合して評価する。					
授業進度・内容					
時数	前 期	時数	後 期		
7	1: Different People, Different Maps	7	8: Nature's Way		
7	2: Feathered Migrants	7	Reading Selection 2: The Day I Met My Mother		
8	3: Tricks of the Memory	8	9: Time Running Out for the Environment		
8	4: History of Basketball	8	10: Either-or		
2	前期中間考査	2	後期中間考査		
7	Reading Selection 1: To Eat, or Not to Eat	12	11: On Being a World Citizen		
7	5: Plan of Attack	10	Reading Selection 3: The Joker		
8	6: No More Heroes?	2	学年末考査		
8	7: Stephen Hawking				
2	前期期末考査				

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態
English ConversationⅡ	G. A. DAVIES	2年全	5(1)	Required	1 class per week through the year
教科書・参考書等					
Textbook: <i>On Course -- Student Book 1</i>					
Author: Carol Cellman					
Publisher: Oxford University Press.					
授業目標・授業方針・学習方法・評価方法等					
The Aim of this Subject: To develop a communication competence through moded conversations, practice exercises, and guided interactions with other students.					
Teaching Methods: Are based on student-centered activities, such as read and look up, practice conversations, roleplay and partner conversations.					
Evaluation: Is by tape cassette exercises, fill in exercises and sentence completion.					
What I want the students to study: Is the practical skills in the use of English conversation as used in daily life, such as meeting people, requesting information, travel and work.					
授業進度・内容					
時数	First Term	時数	Second Term		
	1: This is my family		16: Do you need a racket?		
	2: Say the numbers		17: Do you like baseball?		
	3: Please send a taxi right away		18: Are you ready to order?		
	4: Who's that over there?		19: Is that one-way or a round trip?		
	5: What time's the concert?		20: I don't feel well today.		
	6: But they're expensive.		21: I usually get up at 7:30.		
	7: Are you all right?		22: This restaurant was great last year.		
	8: What's the matter?		23: A week ago, we were in Florida.		
	9: What's in the living room		24: I called all day.		
	10: Oh, yes - room 30 is excellent!		25: How was the party?		
	11: By the way, how much is it?		26: When I was 17, I broke my arm.		
	12: Go one block to Maple Avenue		27: Please, can you help me?		
	13: What's happening?		28: How many do you need?		
	14: Is she going to classes this week?		29: It's the nicest restaurant around.		
	15: Don't forget your keys!		30: I'm going to need your help.		
	Term Examination		Term Examination		

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態
生物学	原嶋 修一	2B	2	必	週2時間通年
教科書・参考書等					
教科書：生物I B (第一学習社) 参考書：増補 最新図表生物 (浜島書店)					
授業目標・授業方針・学習方法・評価方法等					
<p>授業目標：生物に関する基本的知識を身につけ、生命について理解する。</p> <p>授業方針：高等学校での「生物」の内容に準拠し、生物学の基本的事項を講義する。生命の基本単位である細胞の構造について理解させ、生命の連続性を支える生殖と発生、生命活動の源である物質代謝について講義する。遺伝現象および生物工学に必須な遺伝子発現についてその概略を理解させる。さらに、生物の進化や生態についても簡単にふれる。</p> <p>学習方法：毎回、必ず復習すること。復習は短時間ですむので、授業した部分については必ず復習し理解につとめること。</p> <p>評価方法：定期試験で評価する。レポートや授業態度も加味する。</p>					
授業進度・内容					
時数	前 期	時数	後 期		
2	1 「生物学」の学習にあたって	6	7 物質代謝 同化～光合成・窒素同化 異化から酵素呼吸・無気呼吸 エネルギーの利用		
4	2 生物の基本単位—細胞 細胞の構造、細胞小器官のはたらき	4			
4	3 細胞分裂 体細胞分裂と減数分裂	2			
4	4 生殖 無性生殖と有性生殖	4	8 遺伝 メンデルの遺伝の法則		
2	配偶子形成と受精	2	後期中間試験 遺伝子と染色体		
2	生物の生活環	2	変異		
3	前期中間試験	2	9 遺伝子と形質発現 遺伝子の本体		
3	5 動物の発生・その過程 発生のしくみ	4	遺伝情報の発現		
3	植物の発生	3	10 生物の進化		
2	6 生体内の化学反応 生体構成物質	3	11 生物の生態		
6	酵素の性質と酵素反応 前期末試験		学年末試験		

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態
地 学	平晋一郎	2MEC	2	必	週2時間通年
教科書・参考書等					
教科書：「地学I B」 海野和二郎、上田誠也、鎮西清高ほか9名 東京書籍					
授業目標・授業方針・学習方法・評価方法等					
<p>授業目標：宇宙の構成や太陽系の運動、地球の歴史と地球表面の諸現象の基礎的な知識を習得し、地球環境保全や災害防止に対する科学的な思考能力を養う。</p> <p>授業方針：地学の特徴を理解させるために、できるだけ具体的な事例を取り上げ、正しい自然観を育成させる。</p> <p>学習方法：気象、天文、地震、火山などの自然現象に常に関心と疑問を持ち、学習したことと照らし合わせてみるのが大切である。</p> <p>評価方法：主に4回の定期試験で評価を行なうが、レポートの提出状況、授業態度等も加味する。</p>					
授業進度・内容					
時数	前 期	時数	後 期		
6	1. 地球の形と内部構造	8	5. 循環する大気と海		
8	2. 動く大地	6	6. 惑星の運動		
2	前期中間試験	2	後期中間試験		
6	3. プレートのかしき	8	7. 太陽と恒星の世界		
8	4. 火山の噴火とマグマの活動	6	8. 宇宙、地球、われら人類		
2	前期末試験	2	学年末試験		

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態		
国語	金芳憲雄	3全	2	必	週2時間通年		
教科書・参考書等							
テキスト等：自主教材（小説、随筆、詩、短歌、俳句、評論） 自主教材（漢字） 自主教材（表現）							
授業目標・授業方針・学習方法・評価方法等							
<p>学習目標：(1) 種々のジャンル、種々のタイプの文章に触れ、幅広い読解力を身につける。 (2) 社会人として必要な実用国語を身につける。 (3) 言いたいことをきちんと表現できる作文力を身につける。</p> <p>授業方針：演習とその確認を中心に行う。</p> <p>学習方法：受け身にならず、自らすすんで積極的にアプローチしよう。 その際、次のことを行うこと。 (1) 自ら疑問を抱き、自ら解を求める。 (2) 疑問から解に至るプロセスを(試行錯誤したことの全てを含めて)確認する。 (3) 自分の疑問の持ち方、解への方法、解の内容等の全てについて、妥当であったか否かをきちんと見極める。</p> <p>評価方法：年4回の定期試験の成績及び平常の試験や提出物の成績を総合して行う。</p>							
授業進度・内容							
前 期			後 期				
時数	読解その他	国語表現	漢字等	時数	読解その他	国語表現	漢字等
12	評論を読む	表現と理解 話すこと 聞くこと 文章を書く 主題	教育漢字を 習得する	4	小説を読む	種々の文章 を書く 手紙 記録/報告 説明/論説	常用漢字を 習得する
2	随筆を読む			12	韻文を読む 詩・短歌 俳句		
2	前期中間試験			2	後期中間試験		
8	随筆を読む	文章を書く 主題 文章の構成 推敲	教育漢字を 習得する	12	シナリオを 読む 戯曲 落語	種々の文章 を書く 説明 論説 その他	同音異義語 同訓異字語 故事成語 その他を 習得する
8	小説を読む						
2	前期末試験			2	学年末試験		

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態	
倫理	小柳正弘	3全	2	必	週2時間通年	
教科書・参考書等						
プリントを配布する。						
授業目標・授業方針・学習方法・評価方法等						
<p>授業目標・方針：倫理学とは「人間の学」であり、私たちが日常ことさらに問題とすることは人間のありかたを問うものである。この講義では、常道にのっとり主として思想史に素材をとって、さまざまなものの考えかたを学ぶことをとおしてそれを問う。ことによれば、諸君の関心をもつところは「いま・ここ」における自身のありようであり、それをどう考えるかということかもしれない。しかし、私たち自身のありかたはあまりにも自明とされ慣れ親しまれている。それゆえ、私たち自身のありかたをあきらかにするために「歴史」のなかでそれを対象化し相対化することが必要なのである。</p> <p>学習方法：しっかり講義をきき、しっかり考え、しっかりノートをとる。 「ある立場にたった場合、ある問題について、どのように考えることができるか」ということについて、きちんと理解することが重要。</p> <p>評価方法：試験、ノート、レポート等で評価する。 試験は、明晰かつ判明な日本語で解答すること。</p>						
授業進度・内容						
時数					時数	
*	授業の進行は、AからBDE（並行）をへてCFへと進める予定。				C	西洋の思想（近代） ルネサンスと近代 カトリックとプロテスタント デカルトとベーコン 社会契約説と国家 近代自然科学とパラダイム
A	ガイダンス みずからをかえりみる 倫理（学）とはなにか 倫理と道徳 人間とは				D	東洋の思想 禅の思想 公案と悟り インドの死生観
B	西洋の思想（古代） 自然学と神話 古代ギリシアとはどのような時代か ソフィストの相対主義と弁論術 ソクラテスの問答法とエビステーメー プラトンの「イデア」と理想国家論 アリストテレスの「エタラ」と正義論 ストア派とエピクロス				E	さまざまな人生観 星野富弘と神の愛 大江健三郎・光の生き方
					F	余裕があれば、より実践的な倫理上のテーマをあつかう。

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態
数 学	野入 隆 元田康夫 小原康博 五十川 誠	3全	6(4)	必	週4時間通年
教科書・参考書等					
教科書：「工科の数学 微分積分学」 田代嘉宏 森北出版 問題集：「新編 高専の数学2 問題集」 田代嘉宏 森北出版 「新編 高専の数学3 問題集」 田代嘉宏 森北出版					
授業目標・授業方針・学習方法・評価方法等					
<p>授業目標：前期で2年で残した第2章 微分法のテイラーの定理をまず習得し、第3章 積分法の 基本的事項を習得する。後期で2変数関数の微分積分と簡単な微分方程式を習得する。</p> <p>学習方法：進度はゆっくりのようでも、まず確実に新しい知識が説明されるし、前に習った内容と関連があるので、消化不良を起こさないように予習・復習をしっかりとすること。特に問題を沢山解くことが大事である。</p> <p>評価方法：主に各種の試験（4回の定期試験、春季および夏季試験、その他各教官が行う試験）で評価を行うが、レポートの提出状況、出席状況、授業態度等も加味する。</p> <p>必要な予備知識：1年で習った初等関数の基本的性質および2年で習った微分法の基本的性質を十分に理解しておくこと。</p>					
授業進度・内容					
時数	前 期	時数	後 期		
12	第2章 微分法 テイラーの定理	10	第4章 2変数関数の微分積分 14. 2変数関数 15. 偏導関数の応用 16. 重積分		
8	第3章 積分法 10. 積分の基礎	12	後期中間試験		
10	11. いろいろな関数の不定積分	2			
2	前期中間試験	16	第5章 簡単な微分方程式 17. 微分方程式と解 18. 2階微分方程式		
14	12. 定積分	12			
16	13. 定積分の応用と拡張	2	学年末試験		
2	前期末試験				

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態
数 学	野入 隆 小鉢暢夫	3全	6(2)	必	週2時間通年
教科書・参考書等					
教科書：「工科の数学 線形代数学」 田代嘉宏 森北出版 問題集：「新編 高専の数学2 問題集」 田代嘉宏 森北出版					
授業目標・授業方針・学習方法・評価方法等					
<p>授業目標：前期で複素数のこと及び3次までの行列の基本的事項を、後期で3次までの行列式の基本的事項を習得する。</p> <p>学習方法：週1回しか講義がないから、特に実行して欲しいのは習った所はすぐに問題を解くようにし、わからない所を残さないようにしておくこと。</p> <p>評価方法：主に各種の試験（4回の定期試験、春季および夏季試験、その他各教官が行う試験）で評価を行うが、レポートの提出状況、出席状況、授業態度等も加味する。</p> <p>必要な予備知識：2年で習った平面や空間の図形とベクトルの基本的な定理や公式を十分に理解しておくこと。</p>					
授業進度・内容					
時数	前 期	時数	後 期		
8	テキスト 線形代数学（2年の続き） 第3章 複素数 8. 複素数と複素平面	2	第4章 行列と行列式 11. 行列式 (11.1) 行列式の定義 (11.2) 行列式の性質 (11.3) 行列式の展開と積 (11.4) 逆行列と連立1次方程式		
6	第4章 行列と行列式 9. 行列と1次変換 (9.1) 行列	4	後期中間試験		
2	前期中間試験	2			
4	9. 行列と1次変換 (9.2) 1次変換	4	11. 行列式 (11.5) 掃き出し法		
2	(9.3) 1次変換の積	10	12. 行列の固有値と対角化		
8	10. 2元連立1次方程式と逆行列	2	学年末試験		
2	前期末試験				

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態
保健体育	宅島 章 四宮一郎 高見信義 河野宗夫	3全	2	必	週2時間通年
教科書・参考書等					
副教材：「新高等保健体育」 松田岩男 他9名 大修館書店 「救急安全教本」 大修館書店					
授業目標・授業方針・評価方法・学習方法等					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 中学時代に学んだ保健体育の知識をさらに学理的に深く、その対象も広くし、体育については理論的・体系的に学ばせ、自分自身の運動の効果と集団における指導性はもとより生涯、自己に適した身体活動を行う習慣を身につけ、余暇を善用する能力を養う。 2. 心身の健康の正しい意味・内容を知らせ、さらに心身の健康保持・増進のための基礎知識として科学的な理解を深めさせる。 3. 私たちの身のまわりで発生した事故や災害によって起こりがちな、ケガや急病に対する正しい救急処置法を学ぶと同時に、自分だけでなく他人の「いのちの大切さ」を学び、事故やケガをしないように事故防止や安全に対する意識を高める。 4. 授業時間不足については、原則として学年評価をしない。 5. 定められた体育服及び体育館シューズを着用しない者については原則として授業に参加させない。 6. 公欠の届けは、体育科所定の用紙に記入の上1週間前に担当教官に提出すること。 					
授業進度・内容					
時数		時数			
1 2	1期 1班 バレーボール 2班 テニス 3班 バasketボール 女子 サッカー	担当者 高見 四宮 河野 宅島	1 2	3期 1班 バasketボール 2班 サッカー 3班 バレーボール 女子 テニス	担当者 河野 宅島 高見 四宮
1 2	全 水 泳 スポーツマン適正テスト測定				
1 2	2期 1班 テニス 2班 バasketボール 3班 サッカー 女子 バレーボール	担当者 四宮 河野 宅島 高見	1 2	4期 1班 サッカー 2班 バレーボール 3班 テニス 女子 バasketボール	宅島 高見 四宮 河野

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態
英語 III A	折田 充	3年全	5(2)	必	週2時間通年
教科書・参考書等					
教科書：『The New Age Readers』 荒木一雄 研究社 問題集：『Stretch! Improve Your English』 東京書籍 参考書：『チャート式基礎からの総合英語』 数研出版 『標準英単語・熟語3000』 第一学習社 『Three Men in a Boat』 Oxford U.P. 『Tooth and Claw』 Oxford U.P.					
授業目標・授業方針・学習方法・評価方法等					
<p>授業目標：英語で「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の4つのコミュニケーション能力について、基本的な技能・知識の習熟と完成を図る。また、応用・発展的な各領域の技能・知識を伸長する。</p> <p>授業方針：「読み取り・聞き取り」についてだけでなく、表現の指導も行う。学生の授業中の積極的な言語活動への参加を重視し、その一環として身近な話題などについての言語活動を課す。定期考査や、長期休暇中の宿題の中でも扱う。長期休暇中には、英語の読み物を課題として与える。また、単語力増強のための指導や、総合問題集による指導も随時行う。各長期休暇後には、それらをもとに課題テストを実施する。</p> <p>評価方法：授業への積極的な参加と、クラス全体の学習の深化に貢献する質問や言語活動への取り組みを高く評価する、そして、授業中の取り組み状況、定着度確認テスト、授業外で取り組む課題、加えて、定期考査を総合して評価する。</p>					
授業進度・内容					
時数	前 期	時数	後 期		
14	Unit 1 1: Some Hints on Reading 2: Life with the Li's Folks 3: Body Language	14	Unit 3 9: The Language of Advertisement 11: Haiku in English 12: Why We Laugh		
2	前期中間考査	2	後期中間考査		
14	Unit 2 5: The Ostrich 6: The Bracelet 7: Vitamin	14	Unit 4 13: Pupil Signals 15: Columbus: A Fallen Hero 16: The 800th Lifetime		
2	前期期末考査	2	学年末考査		

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態
英語 ⅢB	杉山 はるみ	3年全	5(2)	必	週2時間通年
教科書・参考書等					
教科書:『Cultures』 村松美映子 桐原書店					
授業目標・授業方針・学習方法・評価方法等					
<p>授業目標:「異文化」について考えながら、英語の4技能を総合的に発展させることを目指す。</p> <p>授業方針:日本に暮らす外国人とのインタビューを読みながら、文化の多様性について考える。高専では毎年留学生を受け入れ、3年生の中には一緒に勉強するクラスもあるが、彼らを理解するための一助になればと思っている。</p> <p>評価方法:授業への積極的な参加と、クラス全体の学習の深化に貢献する質問や言語活動への取り組みを高く評価する。そして、授業中の取り組み状況、定着度確認テスト、授業外で取り組む課題、加えて、定期考査を総合して評価する。</p>					
授業進度・内容					
時数	前 期	時数	後 期		
1	1: Introduction to Cultures	3	11: What is Culture?		
3	2: Cultural Diversity(1)	3	12: Culture Shock		
3	3: Cultural Diversity(2)	3	13: Stereotypes		
3	4: Cultural Diversity(3)	3	14: Ethnocentrism		
3	5: Cultural Diversity(4)	3	15: Ethnocentrism to Ethnorelativism		
2	前期中間考査	2	後期中間考査		
3	6: Cultural Diversity(5)	3	16: Communicative Styles		
3	7: Cultural Diversity(6)	3	17: High-context and Low-context		
3	8: Cultural Diversity(7)	3	18: Communication Gaps		
3	9: Cultural Diversity(8)	3	19: Values		
3	10: Cultural Diversity(9)	3	20: Language and Culture		
2	前期期末考査	2	学年末考査		

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態
English Conversation Ⅲ	Gail Braybrooks	3年全	5(1)	Required	1 class per week through the year
教科書・参考書等					
Textbook: Let's Speak					
Author: Bev Kusuya, Naoko Ozeki, Kevin Bergman					
Publisher: Lingual House					
授業目標・授業方針・学習方法・評価方法等					
<p>Goal: For travel and better conversation with foreign friends</p> <p>Method: Topic-centered listening and speaking practice through 2-person and group conversation, cassette and video lessons</p> <p>Evaluation: 2 exams -- 30 % Coming to class -- 20 % How much English you speak in class -- 50 %</p> <p>What to study: Understanding what you hear and telling your own ideas</p>					
授業進度・内容					
時数	First Term	時数	Second Term		
3	Money	2	School		
2	Sports & Leisure	2	Home & Food		
2	Cars	1	Music		
4	Friends & Dating	3	Technology & the Future		
1	Yatsushiro	3	Nature & Us		
4	Travel to Canada & the U.S.	4	Mysteries & Connections		
1	Review	1	Review		
1	Exam	1	Exam		

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態
保健体育	宅島 章 四宮一郎	4全	2	必	週2時間通年
教科書・参考書等					
副教材：「イラストによる最新スポーツルール百科」 大修館書店 「救急安全教本」 大修館書店					
授業目標・授業方針・評価方法・学習方法等					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 中学時代に学んだ保健体育の知識をさらに学理的に深く、その対象も広くし、体育については理論的・体系的に学ばせ、自分自身の運動の効果と集団における指導性はもとより生涯、自己に適した身体活動を行う習慣を身につけ、余暇を善用する能力を養う。 2. 心身の健康の正しい意味・内容を知らせ、さらに心身の健康保持・増進のための基礎知識として科学的な理解を深めさせる。 3. 私たちの身のまわりで発生した事故や災害によって起こりがちな、ケガや急病に対する正しい救急処置法を学ぶと同時に、自分だけでなく他人の「いのちの大切さ」を学び、事故やケガをしないように事故防止や安全に対する意識を高める。 4. 授業時間不足については、原則として学年評価をしない。 5. 定められた体育服及び体育館シューズを着用しない者については原則として授業に参加させない。 6. 公欠の届けは、体育科所定の用紙に記入の上1週間前に担当教官に提出すること。 					
授業進度・内容					
時数		時数			
20	1期 1班 ラケットゲーム1 卓球 ・シングルス ・ダブルス 2班 ラケットゲーム2 バドミントン ・ダブルス 3班 ゴルフ1, 2 ・ドライバー ・アイアン	20	3期 1班 ゴルフ1, 2 ・ドライバー ・アイアン 2班 ラケットゲーム1 卓球 ・シングルス ・ダブルス 3班 ラケットゲーム2 バドミントン ・ダブルス	担当者 宅 島 四 宮 高 見	
20	2期 1班 ラケットゲーム2 バドミントン ・ダブルス 2班 ゴルフ1, 2 ・ドライバー ・アイアン 3班 ラケットゲーム1 卓球 ・シングルス ・ダブルス			担当者 四 宮 高 見 宅 島	

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態
英語 IV (総合英語)	宇ノ木 寛 文	4年全	2	必	週2時間通年
教科書・参考書等					
教科書・参考書については別途指示する。					
授業目標・授業方針・学習方法・評価方法等					
<p>授業目標：3年次までに習得した、英語で「聞く」「話す」「読む」「書く」という4つのコミュニケーションの基礎的能力を、さらに応用・発展の領域に伸長させ、統合的な運用ができるようになることを目指す。スピーチ、ディスカッション、ディベート等の活動も取り入れて、このことの習熟を図る。</p> <p>授業方針：講義に加えて、LLでの演習、ペアやグループによるコミュニケーション活動を行う。予習が充分なされていることを前提に授業を進める。題材によっては、授業外の簡単なリサーチを課す。長期休暇中には、英語の読み物を課題として与える。また単語力増強のための指導や、総合問題集による指導も3年次までに引き続き、随時行う。各長期休暇後にはそれらをもとに課題テストを実施する。</p> <p>評価方法：授業への積極的な参加、クラス全体の学習の深化に貢献する質問、また言語活動への真摯な取り組みを高く評価する。授業中の取り組み状況、定着度確認テスト、授業外で取り組む課題、加えて定期考査を総合して評価する。</p>					
授業進度・内容					
時数	前 期	時数	後 期		
	6月と9月末に、それぞれ「前期中間考査」、「前期期末考査」を行う。 具体的な授業の進度・内容については、第1回目の授業時に指示する。		12月と2月末に、それぞれ「後期中間考査」、「学年末考査」を行う。 具体的な授業の進度・内容については、第1回目の授業時に指示する。		

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態
文化史	小柳正弘	4全	2	選	週2時間通年
教科書・参考書等					
教科書： 飯田賢一・中才敏郎・中谷隆雄著『論理学の基礎』昭和堂 その他、参考文献については授業中に紹介するほか、資料を配布する。					
授業目標・授業方針・学習方法・評価方法等					
<p>授業目標：これまで一貫してこの科目のテーマとしてきた「知的生産のための現代的方法と伝統的方法」の検討の一環として、今年度は、昨年度にひきつづき演繹論理学（命題論理と述語論理）の基礎をまなび、知的生産におけるその位置づけをはかる。具体的には、命題（文）の真偽や性格および推論（議論）の妥当性についてのさまざまな判定手法をとりあげ、段階をふんで論理的思考へのレベル・アップをめざす。たとえば命題論理学では、「（ならば）」「または」「そして」といった文と文との基本的関係と（個々に真偽をもった）もろもろの文とのくみあわせをふまえて、文章全体の内容が正しいといえるかどうか、文章のながれが正しいといえるかどうか、といったことについて、（経験に依存することなく）個別に判定したり一般的に性格づけたりする方法をまなぶことで、論理的な思考の訓練をおこなう。</p> <p>学習方法：基礎的な概念や定義をふまえて、段階的に、講義が進行するので、しっかり講義をきいて、練習問題に積極的にとりくむこと。あらゆるゲームと同じように、基本的なルールをしっかりと覚えたいうえで、効率よい処理を可能とするテクニックを積極的に身につけようとする姿勢がないと、成果はあがらない。</p> <p>評価方法：試験、授業での課題への取組、ノート、レポート等で評価する。</p>					
授業進度・内容					
時数	前期	時数	後期		
*	授業進度は一応の目安。	16	・推論の妥当性の判定 ・真理値の方法 ・真理値割当の方法 ・自然演繹法		
2	論理学とはなにか	6	命題論理から述語論理へ（三段論法）		
26	命題論理 ・命題論理結合子 真理表 ・複合命題の性格(恒真/恒偽/偶然) ・恒真と恒偽の判定 真理表の方法 真理値分析の方法 真理値割当の方法 標準化の方法	8 ~	述語論理 ・文から語へ 単称命題 命題関数 ・量化記号 量化命題 ・量化命題と否定/連言/選言/条件法 ・量化命題の一般的表現 ・恒真と恒偽の判定 ・推論の妥当性の判定 ・自然演繹法		

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態
文学	金芳憲雄	4全	2	選	週2時間通年
教科書・参考書等					
テキスト：「大炊介始末」山本周五郎 新潮文庫 ：自主教材（近現代文学の小品等）					
授業目標・授業方針・評価方法・学習方法等					
<p>学習目標：(1) 小説を読む楽しみを知る。 (2) 人間の心理の機微に目を開く。 (3) 時代・社会・人間と文学との関わりについて考える糸口を見出す。</p> <p>授業方針：追体験をするようなつもりで読み深めることから始める。</p> <p>学習方法：(1) 種々の角度から内容をとらえつつ、読み通す。 (2) 読みとったこと、発見したこと、考えを刺激されたこと等を確認するために、作品の紹介、人物評、読後感等を記す。 (3) それらを基に、読みや感想を深め合い、関連する種々のテーマについて考える。</p> <p>評価方法：年4回の定期試験の成績及び平常の試験や提出物の成績を総合して行う。</p>					
授業進度・内容					
時数	前期	時数	後期		
14	ひやめし物語 山椿 おたふく	16	ちゃん 牛 自主教材		
2	前期中間試験	2	後期中間試験		
14	よじょう 大炊介始末 こんち午の日	10	自主教材		
2	前期末試験	2	学年末試験		

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態
法 学	山中 至	4全	2	選	週2時間通年
教科書・参考書					
教科書：「法の世界へ」 池田真朗ほか 有斐閣 1966 参考書：授業の際に案内					
授業目標・授業方針・学習方法・評価方法等					
<p>授業目標：現代社会の中で生起するさまざまな問題を「法」という眼でみつめるための基礎理論を提供することを目標にします。</p> <p>授業方針：社会生活・家庭生活・職業生活で最低限知っておきたい法律知識や考え方を、日常身近な問題との関わりの中でわかりやすく解説します。</p> <p>学習方法：「覚える」のではなく「自分で考える」学習を心掛けて下さい。</p> <p>評価方法：主として、論述式の定期試験により講義内容の理解度を判断、評価します。</p>					
授業進度・内容					
時数	前 期	時数	後 期		
10	1 日常生活と契約 契約と民法、 意思表示と契約主体の能力、 契約自由の原則と典型契約、 所有権移転、連帯保証	8	4 家族関係 婚姻、離婚、親子、扶養、相続		
10	2 日常生活とアクシデント 不法行為と民法・自賠法、 医療行為とインフォームド・コンセント、 製造物責任、訪問販売法・割賦販売法	8	5 企業と法 企業、会社、商人、株主、取締役、 株式市場、インサイダー取引		
10	3 雇用と法 労働基準法、労働契約、憲法27条、 憲法28条、労働基準監督署、 労使協定、就業規則、 労働関係の多様化	6	6 紛争の解決 紛争、裁判、和解・調停・仲裁		
	前期末試験		7 法学777777 一般法と特別法、判例法、法解釈、 公法と私法、民事責任と刑事責任、 憲法、自己決定権、プライバシー権、 生存権、裁判を受ける権利、 外国人と人権		
			学年末試験		

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態
経 済 学	時松雅史	4全	2	選	週2時間通年
教科書・参考書等					
教科書：『経済原論』 日高 晋 有斐閣 プリント資料配布					
授業目標・授業方針・学習方法・評価方法等					
<p>授業目標：経済学がどのような学問かを学生に知ってもらうとともに資本主義経済に貫徹する諸法則を理解する。さらに現代の社会現象を経済学的に整理できる能力を養う。後期は、日本経済の発達を概観しながらその変容について考察を深めていく。</p> <p>授業方針：教科書の通読を中心とし、それを補足するプリントを読み理解していく。夏休みには経済小説等の感想文を課題とする。</p> <p>学習方法：授業の説明をよく聞き、教科書、ノートをよく読むこと。</p> <p>評価方法：定期試験と夏休みの感想文により評価を行う。</p>					
授業進度・内容					
時数	前 期	時数	後 期		
4	序 論 経済学とは何か	4	第三篇 分配論 利潤について		
8	第一篇 流通論 商品、貨幣、資本について	4	地代、利子について		
	前期中間試験	6	日本経済史 江戸時代のモノの流れと信用制度 の発達		
6	第二篇 生産論 資本の生産過程	4	明治維新と諸改革		
4	資本の流通過程	12	昭和経済史 戦後復興と高度経済成長		
8	資本の再生産過程		学年末試験		
	前期末試験				

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態
ドイツ語	目 正勝	4全	2	必	週2時間通年
教科書・参考書等					
教科書：「ドイツ名作の旅」 小塩 節著、朝日出版社 辞書：「アポロン独和事典」 根本道也他編 同学社					
授業目標・授業方針・学習方法・評価方法等					
<p>授業目標：ドイツ語の発音、文法の基礎を身につける。</p> <p>授業方針：テキストに従いながら、できるだけ疑問点を残さないように進む。</p> <p>学習方法：参考書を併用して、理解を確実にする。</p> <p>評価方法：試験に拠るほか、レポートの提出状況、授業態度なども加味する。</p>					
授業進度・内容					
時数	前 期	時数	後 期		
1-3週	発音、辞書のひき方、動詞の現在人称変化など。名詞、冠詞類。 代名詞、会話体の文。 前置詞、命令形など。 形容詞の用法、動詞の位置。	1-3週	動詞の過去など。		
4-6週		4-6週	完了形。		
7-9週		7-9週	受動態、分詞、z u不定詞。		
10-12週		10-12週	話法の助動詞など。		
13-15週		13-15週	関係代名詞、接続詞。		

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態
中国語	宮崎 龍介	4全	2	必	週2時間通年
教科書・参考書等					
教科書：「話す中国語 基礎篇」 薫燕・遠藤光暁編、朝日出版社 辞書：「アグレッシブ中国語辞典」 小学館					
授業目標・授業方針・学習方法・評価方法等					
<p>授業目標：隣国の言葉である「中国語」に親しみを持つとともに、その背景としての中国の人、文化、社会に関心を持つ。</p> <p>授業方針：毎回、できるだけ全員を指名し、大きな声で発音練習をする。</p> <p>学習方法：CDが付属しているので、自宅学習に大いに活用すること。</p> <p>評価方法：定期試験と平常点（出席、課題提出など）との総合評価。</p>					
授業進度・内容					
時数	前 期	時数	後 期		
2	オリエンテーション 中国と中国語のアウトライン	6	「有」と「在」 主述述語文		
12	発音（母音・子音・声調） ピンイン表記	6	数量表現・量詞など		
2	前期中間試験	2	復習		
4	動詞述語文	2	後期中間試験		
4	名詞述語文・人称代名詞など	6	時の表現など		
4	各種疑問文など	6	方位詞・前置詞など		
2	復習	2	復習		
2	前期期末試験	2	後期期末試験		

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態
哲学	小柳正弘	5全	2	必	週2時間通年
教科書・参考書等					
教科書： 上山春平編集『パース ジェイムズ デューイ』中央公論社 必要に応じて適宜、印刷物を配布する。 参考文献については、文献案内を配布し、講義のなかでくわしく紹介する。					
授業目標・授業方針・学習方法・評価方法等					
<p>授業目標・方針： 哲学についてのオーソドックスな理解をめざしつつ、現代哲学の源泉のひとつである「プラグマティズム」と古来哲学において重要な問題とされてきた「自由」の問題をとりあげて、哲学のありようについて考える。また、できるかぎり、原典にふれて、思想や問題の骨格をとらえる訓練にもつとめたい。</p> <p>学習方法： しっかり講義をきき、しっかり考え、しっかりノートをとる。 まずは、「ある立場にたった場合、ある問題について、どのように考えることができるか」ということについて、きちんと理解することが重要である。</p> <p>評価方法： 質疑応答などの授業態度、試験、ノート、レポート等で評価する。 試験やレポートは、明瞭かつ判明な日本語で記述すること。</p> <p>* 下記の授業進度は一応の目安。内容的には右半分と左半部分を並行・融合しておこなう。</p>					
授業進度・内容					
時数		時数			
2	さまざまな哲学観 ・哲学の内外からの肯定と否定	4	プラグマティズムとは ・プラグマティズム概観		
4	哲学とはなにかという問をめぐる問題 ・問の端緒 ・古代ギリシアとの連関 ・問の帰結	6	・ジェイムズ 哲学とはなにか ・パース 探求の方法 ・デューイ 探求のテーマとパターン ・ミード 行為からみた自我		
2	哲学関係参考文献案内 ・事典、辞書、学史、雑誌 ・入門書、論理学、倫理学、他	2	自由の問題 ・自由の語義と意義 ・自由論の思想的構図 ・自由論の諸相 J・S・ミル、ハートマン、ハイネ、パース、ジェイムズ		
		6	プラグマティズムと自由論 ・デューイ 「自由の哲学」		
		6	・ジェイムズ 「決定論の二つのタイプ」		
		6	・パース 「概念を明晰にする方法」		
		2	・展望 クリフトとローティ		

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態
人文社会特論 (美術史)	佐藤伸二	5全	2	必	週2時間通年
教科書・参考書等					
教科書： 使用せず、プリント資料配布 参考書： 『やきもの』 吉田光邦 NHKブックス 『やきもの文化史』 三杉隆敏 岩波新書 『中国陶磁史』 佐藤雅彦 平凡社					
授業目標・授業方針・学習方法・評価方法等					
<p>授業目標： 日本人はやきもの好きで、日常生活でのかわりは深い。日本のやきものの特徴を理解させ、それを通して日本人の美意識について考えさせる。</p> <p>授業方針： やきものに関する用語や分類等の基本的な知識を身につけさせ、陶磁全集等の写真を見せ、やきものを見る目を養わせる。授業後には毎回短い感想を書かせる。</p> <p>学習方法： 説明をよく聞き、写真ををよく見ること。</p> <p>評価方法： 年4回の定期試験と授業後に書かせた感想により評価を行う。</p>					
授業進度・内容					
時数	前期	時数	後期		
4	1. やきものの分類と特色	2	5. 日本のやきものの歴史と特色		
4	2. やきものの原料と製作法	5	(イ) 先史時代の土器		
6	3. 中国のやきものの歴史と特色 (イ) 磁器の成立	5	(ロ) 古代の土器と陶器		
2	前期中間試験	6	(ハ) 中世の陶器と瀬戸焼 (ニ) 近世のやきもの		
4	(ロ) 染付の成立	2	後期中間試験		
4	(ハ) 五彩の成立	4	6. 茶の湯の美意識とやきもの		
2	4. 朝鮮半島のやきものの歴史と特色	2	7. オランダへ輸出された日本のやきもの		
2	(イ) 高麗の青磁・白磁	2	8. やきものに見る日本の美		
2	(ロ) 李朝の白磁・染付	2	学年末試験		
2	前期末試験				

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態
人文社会特論 (言語学)	清野 智昭	5	2	必	週2時間通年
教科書・参考書等					
プリントを用意する。					
授業目標・授業方針・学習方法・評価方法等					
<p>授業目標・授業方針： 言語学の基本的な知識を身近なトピックを扱うことで身につかせる。言語を構成する部分、音声・語彙・文法・意味を順次扱っていく。その際、母語である日本語、特に九州の各方言や、英語を中心的な題材とするが、随時、他の言語も紹介し、対照言語学的な観点も導入する。</p>					
授業進度・内容					
時数	前期	時数	後期		
	授業中に適宜指示する。				

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態
健康科学	宅島 章 四宮一郎	5全	2	選	週2時間通年
教科書・参考書等					
テキスト：「ヘルス&フィットネス」 増田卓二 他 ナカニシヤ出版					
授業目標・授業方針・評価方法・学習方法等					
<p>近代化が進んだわが国では、日常生活を営んでいく上においては、自らの高い体力は要求されず、労作は全て機械化されている現状にあり、これらの弊害は、成人病の急増としてあらわれ社会問題となっている。このような環境下にある今、われわれは健康な生活を送るには、「いかなる栄養を摂取し」、「いかなる運動をし」、「いかなる体力を維持する必要があるか」を学び、実践する必要がある。授業では上記3本を柱にし、学年末には、試験を行う。</p> <p>実技においては、ゴルフ、バドミントン、ローラースケートを取り入れ、技術の向上は当然として、その種目における生体負担度も測定し、自己の体力及び健康度を把握させたい。</p> <p>受講上の留意事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 時間を厳守すること。 2. 体育実技を伴うので必ず正課体育服で参加すること。 3. 体調を十分に整え、積極的に授業に参加すること。 4. 試合および就職で公欠をする場合は、体育科所定の用紙に記入の上1週間前に担当教官へ提出すること。 					
授業進度・内容					
時数				時数	
	実 技			理 論	
4	全 スポーツマン適正テスト測定			8	第2章 健康づくりと運動
2 8	ゴルフコース ・ショートアイアン・ミドルアイアン ・アプローチ			8	1. 運動のエネルギーと酸素の役割 2. 有酸素運動と無酸素運動 3. 健康づくりのための運動 4. 運動処方
2 8	レクリエーションコース ・バドミントン ・ローラースケート			8	第3章 栄養・運動と肥満 1. 食物の成分とからだの成分 2. 運動と栄養 3. 肥満と栄養 4. 肥満治療
8	理 論 第1章 現代人の健康 1. 平均寿命・余命と疾病構造の変化 2. 現代社会の特徴と健康問題 3. 健康づくりの指針			8	第5章 体力とトレーニング 1. アスリートの体力 2. アスリートのトレーニング

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態
ドイツ語	目 正勝	5全	2	選	週2時間通年
教科書・参考書等					
教科書：「エルザと白鳥の騎士」小栗友一編注、同学社					
授業目標・授業方針・学習方法・評価方法等					
<p>授業目標：平易な読み物を読んでゆきながらドイツ語の読解力を身につける。</p> <p>授業方針：教室での和訳の発表を基礎にする。</p> <p>学習方法：参考書を併用して、理解を確実にする。</p> <p>評価方法：定期試験、平素の学習成績を考慮して行う。</p>					
授業進度・内容					
時数	前 期		時数	後 期	
	(中間試験まで) テキストの和訳。1回1-2ページ 読んでゆく。 接続法、関係代名詞を学習する。			(後期中間試験まで) テキストの和訳。全般的に文法を 補強する。	
	(前期末試験まで) テキストの和訳。 受動態を学習する。			(学年末試験まで) テキストの和訳。テキストの内容と 関連した事柄。	

授業科目名	担当教官	学年学科	単位数	必・選	授業形態
中国語	宮崎龍介	5全	2	選	週2時間通年
教科書・参考書等					
教科書：「話す中国語 初級～中級篇」薫燕・遠藤光暁編、朝日出版社					
辞書：「アグレッシブ中国語辞典」・「中日辞典」、小学館					
授業目標・授業方針・学習方法・評価方法等					
<p>授業目標：既習の基本事項の上に、中国語の大きな特徴である、アスペクト助詞、各種補語、存現文、慣用表現を学び、実用に向けての発展学習を行う。</p> <p>授業方針：毎回できるだけ全員を指名し、大きな声で発音練習をする。</p> <p>学習方法：CDが付属しているので、自宅学習に大いに活用すること。</p> <p>評価方法：定期試験と平常点（出席、課題提出など）との総合評価。</p>					
授業進度・内容					
時数	前 期		時数	後 期	
2	発音の復習		4	結果補語・方向補語など	
2	基礎文型の復習		4	「把」の構文・慣用表現	
8	助動詞・連動文など		4	可能補語・慣用表現など	
2	復習		2	復習	
1	前期中間試験		2	後期中間試験	
8	アスペクト助詞		4	程度補語	
4	比較・動詞の重ね型など		8	存現文・使役文・受け身文など	
2	復習		2	復習	
2	前期末試験		2	後期末試験	